かるちゃ～ナビ

ザ・見遊（みゅ～）じあむ ……59

玉手橋
（柏原市）

夢の遊園地へ続いた メルヘンチックな橋

大和川の支流、石川に架かる紅白色のメルヘンチックな吊り橋です。1928年（昭和3年）に、西日本で最古の遊園地・玉手山遊園（1998年に閉園）への通行路として、大阪鉄道（現在の近鉄）によって開設されました。戦後、橋の管理は国分町（現在の柏原市）に引き継がれました。長さは151メートルで幅は3・2メートル。主塔と橋台は鉄筋コンクリート製で、装飾を兼ねた赤レンガで補強されています。歩道はアスファルトで舗装されていますが、吊り橋だけに、渡るときには少々の揺れを感じます。遊園地への入口としてデザインされた歩行者・自転車専用の橋だったのですが、遊園地が閉園になった現在は、近鉄の駅を利用する通勤・通学者が利用しています。2001年（平成13年）に、吊り橋としては全国で初めて国の登録有形文化財に指定されました。幼い頃、玉手山遊園に行くときに、親に手をひかれてこの橋を渡った人も多いのでは？

橋の造りは、童話の世界を連想させます

現地へのアクセス

▶近鉄南大阪線「道明寺駅」下車、徒歩約3分。駅南側の踏切を渡り、堤防をあがってすぐ

このシネマがえいが

「借りぐらしのアリエッティ」

人間から生活用品を借用して
床下で暮らす小人一家の物語

毎年のようにヒットアニメを製作しているジブリの新作アニメです。メアリー・ノートンのファンタジー小説「床下の小人たち」を基に、古い屋敷の台所の下に暮らす小人一家の物語。企画は「崖の上のポニョ」の宮崎駿が担当し、監督は「千と千尋の神隠し」「ハウルの動く城」といったジブリ作品にかかわってきた若手の米林宏昌さん。

古い屋敷の台所の下に住み、暮らしに必要なものはすべて床の上の人間から借りてくる小人たち。題名の「借りぐらし」はそんな意味からの言葉です。一家の14歳のアリエッティは、好奇心と伸びやかな感性を持つ少女ですが、人間に見られないよう、目立たないよう、つつましさと用心深さを求められる毎日を送っていました。ある日、その屋敷に引越してきた心臓病の少年に自分の姿を見られてしまいます。少年の両親は離婚して、父親とは別居。外交官の母親も海外赴任することが多く、家族との交流は薄い。屋敷には少年と祖母、手伝いのおばさんだけ。アリエッティは父親といっしょに屋敷の中を砂糖などの生活品調達にでかけます。しかし砂糖の調達には失敗し、アリエッティの家族には危機が…。

メアリー・ノートンの原作もいま書店の店頭に並んでいます。原作は1952年に出版され、この年のカーネギー賞（英国の児童文学賞）を受賞しています。

摂津 河内 和泉 おおさか三国誌 ……59

「難波（なにわ）の宮」と山根徳太郎
「われ、幻の大極殿を見たり」

（大阪市中央区）

大阪城の南に広がる「難波の宮跡」の遺跡は、発見される50年前までは「日本書紀」に記されていただけで、ほとんどの人がその存在を信じていませんでした。トロイの遺跡を発掘したシュリーマンのように、この伝説の遺跡を掘り当てたのが、歴史学者・山根徳太郎氏（1889～1973）です。大阪市に生まれた山根氏は、少年時代から古代史に興味を持ち、高校教師などの勤務を経て、大学院で歴史学を学びました。1919年、陸軍用地から出土した瓦を見て、この地に「難波の宮」があったことを確信します。戦後、本格的な発掘調査を始めましたが、資金もなく、私財をはたき、寄付を募って調査を続けました。しかし確証となる遺跡はなかなか見つかりません。「難波の宮でなく、『難破した山根の宮』だ」などと学会で揶揄（やゆ）されながらも、山根氏はねばり強く調査を続けました。ついに1961年、第11次の調査で、宮殿の跡とされる中央階段を発見します。この時山根氏は「われ、幻の大極殿を見たり」という名言を残しました。その後も調査は進みますが、時代は高度経済成長のまっただ中。遺跡は高速道路やビル建設など開発の波にさらされましたが、多くの人が保存運動に立ち上がり、ついに宮殿中心部が史跡に指定されました。

大阪城の南に広がる「難波の宮」公園

遺跡を見下ろす山根氏の胸像（大阪歴史博物館）

大阪の戦跡を歩く 第58歩

大阪赤十字病院
（大阪市天王寺区）

戦時中の面影を偲ばせる病棟

1909年（明治42年）に設立された「大阪陸軍赤十字病院」は、第二次世界大戦まで病床830を超す東洋一の赤十字病院でした。戦時下には一般は外来しか受け付けず、病院の全能力を戦傷者の収容・治療にあてていました。看護婦も「赤十字戦時救護班」という名で従軍看護婦として630人が戦地に送られ、26人が戦病死したと言われています。病院には防空壕用の地下通路もありましたが、1945年の大阪大空襲では4ケ所に1トン爆弾が落されました。戦後は米軍に接収され、1955年（昭和30年）になって解除となりました。現在は、昔のままの姿で残る第二病棟の建物が、戦時中の面影を偲ばせています。

いまも心に響く 名詩・名歌・名語録

**悟ってみれば
仏も下駄も
同じ木の片である**
一休

仏像は人にあがめられ、下駄は人の足に敷かれます。でも、仏像も下駄も元を正せば、同じようなただの木片にすぎません。物事の本質をとらえれば、つまらない事にこだわらずに生きていける。そうすれば本当に大切なことが見えてくるに違いないという意味です。
「一休さん」でおなじみの禅僧・一休宗純（1394～1481）の言葉。

**良い戦争、悪い平和など
あったためしはない**
フランクリン

避雷針の発明などで科学者として知られているベンジャミン・フランクリン（1706～1790）は、アメリカの独立宣言の起草者の一人でもあります。アメリカの独立戦争中は、パリでヨーロッパ諸国の外交交渉を行い、フランスの協力や他の諸国の中立をとりつけ、国際世論の力を集めて独立に貢献しました。